

## 令和5年第9回総務文教常任委員会 要点記録

開閉会日時	令和5年10月20日（金曜日）			開会	13:25		会議場所	別海町議会 委員会室2	
				閉会	15:05				
委員の出欠	1 番	市川 聖母	出席	2 番	吉田 和行	出席	8 番	田村 秀男	出席
	14 番	佐藤 初雄	出席	15 番	戸田 憲悦	出席			
出席説明員	総務部	総務部長		総務部次長兼総務課長		総合政策課長		情報化推進室長	
		伊藤 輝幸	出席	寺尾真太郎	出席	松本 博史	出席	山田 哲哉	欠席
		財政課長		税務課長		防災・基地対策課長		尾岱沼支所長	
		角川 具哉	出席	竹中 利哉	出席	岩口 裕昭	出席	大坂 恒夫	欠席
		西春別支所長		総務課主幹		総務課主幹		総合政策課主幹	
		小村 茂	欠席	佐藤 亮	欠席	武田 聖士	欠席	佐藤 貴也	出席
		税務課主幹		防災・基地対策課防災監		防災・基地対策課主幹		防災・基地対策課主幹	
		伊藤 武史	欠席	三瓶 秀憲	欠席	深川 淳一	欠席	橋本 達也	欠席
	総合政策課主査		財政課主査		税務課主査		防災・基地対策課主査		
	人羅 茜	出席	高橋 克彦	欠席	竹本 誠	欠席	寺澤 淳司	出席	
	選挙管理委員会	書記長		書記					
		寺尾真太郎	出席	佐藤 亮	欠席				
	別海消防署	別海消防署長		別海消防署副署長		別海消防署副署長兼予防課長		別海消防署警防課長	
		山田 勝人	欠席	山桑 貴光	欠席	西塚 隆幸	欠席	太田 裕司	欠席
	教育委員会	教育部長		生涯学習センター長兼中央公民館長		学務・スポーツ課長		指導主幹	
		宮本 栄一	出席	福原 義人	出席	斎藤 陽	出席	稲村 和典	欠席
		指導参事		学校教育課長兼学校給食センター長		生涯学習課長		西公民館長	
		吉光寺 勝己	欠席	池田 卓也	欠席	木戸口 誠	出席	小村 茂	欠席
		東公民館長		図書館長・郷土資料館長他		学務・スポーツ課主幹		学務・スポーツ課主幹	
		大坂 恒夫	欠席	堺 啓	出席	高津 寛人	欠席	恒川 敦史	出席
		学校教育課主幹		中央公民館副館長		西公民館副館長		東公民館副館長	
		堀込 美穂	出席	今野 学	欠席	佐藤 政士	欠席	立澤 雅彦	欠席
		郷土資料館副館長		郷土資料館主幹		学務・スポーツ課主査		学校教育課主査	
		石渡 一人	出席	戸田 博史	欠席	武田 文吉	欠席	高橋 美香	欠席
		生涯学習課主査		学校給食センター主査		図書館主査			
		上杉 大洋	欠席	平下 奈津子	欠席	吉田 美奈子	欠席		
	委員外の出席	議長	西原 浩					合計	1名
	事務局職員	局長	干場 富夫					合計	1名
傍聴者数	一般	0名	報道関係者	0名			合計	0名	

# 令和5年第9回総務文教常任委員会 要点記録

## 会議に付した事件及び会議結果など

発言者	会議経過 ※所管毎に議事を行う事情等により議事番号が前後することがある。
委員長 14番 佐藤	13:25 開会 出席委員5名、欠席委員0名、委員外1名、会期1日 挨拶
総務部長 伊藤	【総務部所管事務調査】 挨拶及び概要説明 ・調査案件は無いが、「その他」として「別海町ふるさと応援制度寄附の現況について」を報告させていただく。
委員長 14番 佐藤	議事2 その他
総合政策課長 松本	(1)「別海町ふるさと応援制度」寄附の現況について ・資料により説明 ・現在の状況として10月に入っても堅調で昨年同期を上回っている。このまま同じ伸びを示すと100億円を超える寄附が見込まれる。 ・今後11月・12月と年間所得が確定するが、これまでは住民税をベースに駆け込みの寄附があったことから、本年もそのような状況を見込んでいる。
委員長 14番 佐藤	・報告内容で、確認したいことなどあるか。
委員 2番 吉田	・9月は約900%、10月も伸びている状況だが、11月以降はどのように見込んでいるか。
総合政策課長 松本	・現状では今の伸び率をベースに12月議会位までを見込みながら予算を確保していきたい。ただ、この伸び率も上昇・下降どうなるかわからない状況。
副委員長 8番 田村	・9月・10月の返礼品は何が大きな割合を占めているのか、わかればお聞きしたい。
総合政策課長 松本	・今年に限っては、なんとと言っても「ホタテ」となる。これは中国の禁輸問題の応援が凄く注文がされている。次いで「いくら」と「味付け焼肉」に加えて「鮭の切り身」となっている。この4つで寄付額の8割強の状況で、「鮭の切り身」は全国的に人気で、昨年の1.6倍の状況。「鮭の切り身」はチリ産の銀鮭が全国的に大人気だったが、制度改革の影響からその返礼品が消えるなどして、別海産が急浮上したということもある。
副委員長 8番 田村	・割合は4つで80%強と言うことだが、「ホタテ」の割合を概数でも良いのでわかるか。
総合政策課長 松本	・80%の半分の割合となる。
副委員長 8番 田村	・予算の関係では9月に補正をしたが、このような状況から予算の確保は今後どのように進めていくのか。
財政課長 角川	・寄附の急激な上昇を受け、9月29日付けで専決処分をさせていただいた。この件は、11月に予定している臨時会で報告させていただいて、承認を受けたいと考えている。
副委員長 8番 田村	・専決は臨時会でもよいのか。
財政課長 角川	・「次の議会」となるので、次の議会は臨時会となり、そこで報告したい。
委員 1番 市川	・寄付する方の寄附の使用目的とパーセントを教えてください。
総合政策課長 松本	・これまでと求められている用途の順番的なものは変わらないが、今回の禁輸の問題で、より産業の活用を求める寄附者が増えている。具体的には、産業関係に求める寄附者は54.6%、次の子ども子育てが22.4%、次の町長にお任せが12.7%、次の地方創生が3.2%、次が健康や医療の充実で2.1%、高齢者・障がい者支援が1.9%、脱炭素他環境が1.9%、最後にスポーツ・文化・生涯学習が1.1%の割合となっている。
委員 1番 市川	・その内容から、産業にも何かしらの分野でお金を使っていくという予算になっていくということでしょうか。
総合政策課長 松本	・今までは寄附が入ったらお礼の品は、産業振興（特産品）にもあたるということで、ふるさと応援制度推進事業の歳出の事業費を充当するために、寄附のうちの「町長にお任せ」と「産業」から差し引きして残りを考えていたやり方をしてきた。そのため、同じやり方をすると、昨年度から使い道として「子育て」が一番多くなる。ただ、この方法で良いのかは課題で、担当者としては、これまで当初予算の資料の中で、事業に充てる予算がいつまでなのかかわからない状態になっているので、来年度の当初予算資料には、総合計画期間中の最終年度まで充てこんでよいのかを見える化した資料を作りたいと考えていて、その時に、今の充当の仕方が良いのかを含め分析をする必要があると考えている。

## 令和5年第9回総務文教常任委員会 要点記録

委員長 14番 佐藤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他になにかあるか。</li> <li>・なし</li> </ul> <p>総務部 13:48 終了 休憩</p> <p>14:08 再開 委員長挨拶</p> <p>【教育委員会所管事務調査】</p> <p>挨拶及び概要説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本日は、スポーツ・教育文化施設の管理方法や運営経費について、1つ目として「青少年プラザの管理運営方法及び多様な利用方法について」、2つ目として「郷土資料館の現状と課題について」の2件の調査案件となる。また、その他として、「第45回別海町パイロットマラソンについて」を報告させていただく。</li> </ul> <p>議事1 所管事務調査について</p> <p>(1) スポーツ・教育文化施設の管理方法や運営経費について</p> <p>①青少年プラザの管理運営方法及び多様な利用方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料により説明（資料の1及び2を説明）</li> <li>・青少年プラザは、生涯学習センターの付帯施設として令和4年4月から運用を開始している。</li> <li>・資料により説明（資料の3を説明）</li> <li>・資料により説明（資料の4を説明）</li> </ul> <p>質疑</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中央公民館も一緒に使っていく考えか。また、青少年プラザは子ども達に利活用して、子ども達の居場所づくりの建物と感じているが、子ども達が使う場所なのに最低限の設備しか投資しないということは何故か。</li> <li>・生涯学習課長から3館連携の説明をしたが、この3館は「生涯学習センター」、「交流館ぶらと」、「青少年プラザ」で、中央公民館の話となるが、生涯学習センターには3つの機能があり、「公民館機能」、「福祉機能」、「防災機能」がある。その付帯施設なので、3館連携とは離れるが、生涯学習センターの付帯施設なので、公民館の授業も今後可能性としてはある。</li> <li>・青少年プラザは老朽化が進んでおり、仮称ではあるが基本方針を含めて、子供たちにとって最適な環境づくり・居場所づくりということで改修計画も含めて検討していきたい。また、センターの付帯施設なので、センター同様に諸室の貸し出しや小規模な講演会、コンサートなど、それに合わせた改修をしていきたい。今後一定程度の方針が定まった段階で、それらも考慮しながら改修等、子ども達にとっての居場としての機能が持てるような計画にしていきたい。</li> <li>・プラザのアンケートを実施したのは令和3年7月です。それから検討組織が立ち上がるのは2年半ぐらいでスピード感が無い。今年度中に検討組織を立ち上げて、1月位から検討するとなると、予算にも反映できない時期なので、いつまでに結論を出して、いつ開始する予定なのか。</li> <li>・スピード感が無いのは認識している。これまでコロナの状況等もあり進まなかったが、今年度新たに組織を立ち上げたうえで、令和3年7月に実施したアンケートも含めて状況を再度確認しながら、速やかに進めていきたい。</li> <li>・早めに検討組織を立ち上げて進めていただきたい。</li> <li>・3館連携でイメージするのは、それぞれに役割があると思うが、6月開催の委員会資料の利用実績を見ると、「みなくる」と「青少年プラザ」の利用団体が被っている。件数は違うが、これは、青少年プラザだと何歳までしか使えないだとか、その条件は誰が決めているのか。それとも申込者が選んではいるのか。それとも受入側が行うのかお聞きしたい。それと、利用者の中で団体利用と個人利用は件数で分けられているか。</li> <li>・基本的には、申込者がプラザが生涯学習センターを希望する。例えば生涯学習センターのホールを使いたい希望があり、内容がコンサート規模で来館が50人規模の想定であれば、プラザホールを紹介することはあるが、基本的には申込者の申出のとおりとしている。</li> </ul>
委員 一同	
委員長 14番 佐藤	
委員長 14番 佐藤	
教育部長 宮本	
委員長 14番 佐藤	
生涯学習センター長 福原	
生涯学習課長 木戸口	
生涯学習センター長 福原	
委員長 14番 佐藤	
委員 1番 市川	
生涯学習センター長 福原	
副委員長 8番 田村	
生涯学習センター長 福原	
副委員長 8番 田村	
委員 2番 吉田	
生涯学習センター長 福原	

## 令和5年第9回総務文教常任委員会 要点記録

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体・個人の件数については、基本的に申込は付帯施設なので生涯学習センターで受け付ける。インターネットの予約サービスでも受付している。個人利用については、プラザの入口にセンサーのカウンターがありカウントするほか、事務所の受付窓口に記載するようになっている。ですので、個人のカウントと諸室（団体）として借りたい場合には、そこに実績人数を受付名簿に記載するので、そこで掌握できる状況。</li> </ul>
委員	2番 吉田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今現在では、青少年プラザに関して年齢の制限があるわけではないと理解するが、これから基本方針を検討していく中で、子どもの居場所を考えると、利用は子どもにも制限をかけていくということか。</li> </ul>
生涯学習センター長	福原	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでどおり、年齢制限を設けない中で貸館していくが、その中で子どもの居場所をつくっていききたい。子どもに特化した施設では無く大人も利用できる。</li> </ul>
委員	2番 吉田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうなると、特別そこに子どもの居場所をつくるということがぼやけてくるが、青少年プラザを子どもの居場所とするのであれば、どういこうをするのかが見えてこないと思うが。</li> </ul>
生涯学習課長	木戸口	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3館連携の考え方について説明させていただく。矢臼別演習場周辺街づくり構想の3館方針につきましては、生涯学習センター建設は町の構想に基づき建設されたが、昨年4月から生涯学習センター（みなくる）の付帯施設として、青少年プラザが位置づけられた。生涯学習センターは文化活動の拠点、交流館ぶらとは商業を主体とした交流の場、旧マルチメディア館が中高生が集う場として進んできた。その中で青少年プラザは、あくまでも交流施設として構想の中で進んできたので、今、検討組織を立ち上げて方針を決めて老朽化施設の整備をしていきたい。</li> </ul>
委員	2番 吉田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今現在青少年プラザは、小中高校生が個人で利用する場合、各部屋を使うことは可能か。</li> </ul>
生涯学習センター長	福原	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の申し込みは、窓口で名前を書いて自由に使うことは可能。各諸室については、申込が必要となる。未成年者は保安上等のこともあり大人が同行すれば利用は可能となる。</li> </ul>
委員	2番 吉田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今現状、青少年プラザとは言いつつも、子供たちが自由に使える場所は、一部しかないということで良いか。</li> </ul>
生涯学習センター長	福原	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そのとおり。</li> </ul>
委員	2番 吉田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あまり機能していない利用と考える。これから子供たちの居場所を考える部分では、検討しなきゃいけないという認識はあるか。自由度や使い方を、せっかくある施設を子供たちの居場所と言うのであれば、子ども達が自分たちで考えて使いやすいようにとか、それを盛り込むとかという認識はあるか。</li> </ul>
生涯学習センター長	福原	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的に青少年プラザとは言いながらも、公共施設と言うことも前提にはあるが、そう言ったところの子ども達を含めた中で多くの方々に利用していただきたい考え方はあるが、自由になると、表現的には良くないが、目が届かないとなると事故その他何かあった時に施設側としては、対応しきれない部分も出てくるので、その部分も含めて検討委員会（仮称）の中でそう言ったご意見等考え方があれば、都度検討していきたい。</li> </ul>
委員	1番 市川	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の利用者は今現在でどれくらいいるか。</li> </ul>
生涯学習センター長	福原	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料は持ち合わせていないが、コロナが明けて子供たちの利用も含め増加傾向にある。</li> </ul>
委員	1番 市川	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数字が出ていないので何とも言えないが、数字が上がっていれば良い方向に向いていると思うが、横ばいや上がってこないとなると、やっていることが子供たちに響いていない。ここに行ったら何か楽しいっていうのを、子どもの目線で何か企画など、改修するのであればインターネットだけではなく、総体的に考えたらと思う。</li> </ul>
委員	2番 吉田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さっきの質問で、施設のホールじゃなくて入口入ってすぐのところ狭い。そこまで多くを想定してないと思うが、サークルなどで利用希望する時に、そこだと子供たちが自由に何かをやるっていうには使いづらい。それで他の部屋っていうのが申しないと使えないっていう声も聞いているので、そこがもう少し柔軟に使えるようになった方が、子ども達の居場所って考えた時には、子ども達の学びの場に使えるのであれば、そういう形にもっていったらいい。</li> </ul>
教育部長	宮本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由度を持たせた利用方法も必要と感じる。ただ、未成年者の利用については、何か間違いが起きたときの部分も十分に考えていく必要がある。今後、子ども達を主体とした</li> </ul>

## 令和5年第9回総務文教常任委員会 要点記録

		基本方針を策定していくので、その中で対応していきたい。
副委員長	8番 田村	・元々はマルチメディア館としての施設なので、居場所も想定したが足りない部分もある。検討会議において色々な意見を出していただいた中で、委員会としても継続して調査していきたい。
委員長	14番 佐藤	・他に質疑あるか。
委員	一同	・質疑なし
委員長	14番 佐藤	議事1 所管事務調査について
		(1) スポーツ・教育文化施設の管理方法や運営経費について
		(2) 郷土資料館の現状と課題について
郷土資料館副館長	石渡	・資料により説明
委員長	14番 佐藤	質疑
副委員長	8番 田村	・計画が前に進んでいない。公共施設跡地も含めてやらないと前に進まないのでは、早急にやってほしい。
教育部長	宮本	・これまで庁舎内会議で検討してきて、計画が進んでいない状況にはあるが、新築等の関係は、教育委員会としては一定の方向性で計画している状況だが、町内全体のゾーニングについて庁舎内で統一した見解を今後話し合いを設けていかなければならない。
委員	2番 吉田	・候補はいくつか選定してるのか。
教育部長	宮本	・基本的には、現在の場所に新築するか、リノベーションとなれば今後義務教育学校を建設するに当たって、中央地区のどちらかの学校の後もある。教育委員会としても、義務教育学校やスケートリンクの建設など大規模な部分もあるので、それが落ち着いた所あたり位からなのかなと言うことで、今改修工事をして出来るだけ、財政状況にもよるが、出来るだけ早く対応していきたい。
委員長	14番 佐藤	・他に質疑あるか。
委員	一同	・質疑なし
委員長	14番 佐藤	議事2 その他
		(2) 第45回別海町パイロットマラソンについて
学務・スポーツ課長	齋藤	・10月1日に開催した「第45回別海町パイロットマラソン」については、夜からの大雨により、グランドコンディションが非常に悪くスタートした。また、悪天候で本来競技場内で開会式を行う予定をしていたが、選手のコンディションを考慮して、放送のみで行ったほか、競技場内の排水対応や養生作業など、様々な雨対応を行うなかでの開催となった。しかし、スタート後は天候は回復し大きな事故も無く大会を終えることが出来た。
		・参加者数等だが、フルマラソン申込数997名、当日出走者数874名、完走者数は788名、出走者に対する完走率は90.2%、健康マラソンは、申込数229名、当日出走者数195名、完走者数は195名、出走者に対する完走率は100%となる。フル、5km合わせた参加者数合計は、申込で1,226名、出走数で1,069名、完走数が983名、完走率は92%となる。なお、大会終了後に実施したアンケート調査では「大会関係者・スタッフ・ボランティアの温かい支援で楽しく走ることができた」「沿道からの応援が心に染みだ」「スタッフの対応含め別海町の皆様に心から感謝」などの意見が多く寄せられている。
		また、大会終了後にコミュニティーセンターで開催された親睦会においては、「来年もまた参加しよう」「来年もまた会おう」など多く聞かれ盛会のうちに終了した。議員の皆様におかれては、雨の中出席いただき、また、選手への応援やスタッフ・ボランティアへの声掛け
		・激励をいただき感謝する。
委員長	14番 佐藤	・報告内容で、確認したいことなどあるか。
議長	16番 西原	・大会は雨の中大変だったが、転んでいる方もいて、親睦会の中で話した時に、コースの認定等課題はあると思うが、スタートをロードにした方がいいんじゃないかという意見が出たので、どこかのタイミングで協議願いたい。
学務・スポーツ課長	齋藤	・アンケートの中でも全天候トラックでのスタートなどの意見を伺っており。道路スタートについても話があるが、課題としてスタート地点を動かすことにより関門や折り返し地点も移動となる。そうすると移動した場所に関門が設置できるのかという問題や、役員等が使用している迂回路の見直しも出てくる。過去には国道上で折り返しをしていた事もあったが、

## 令和5年第9回総務文教常任委員会 要点記録

		警察からの指導もあり今のコース設定となった。また、現在の折り返し地点が伸びれば、民家があったりすると通行止めになりすることもあり色々検証している。今後も釧路陸上協議協会等関係団体とも協議をしていく。
議長	16番 西原	・関係者の話を聞くと、今のマラソンのスタート・ゴールは道路で大きな大会ではそうしている。ソフトボール場の方へスタートをずらすとできるのではないかなど話もでていた。課題は色々あると思うので、そういうアイデアや話があったということで留めたい。
委員	2番 吉田	・迂回路の件だが、看板がかなり劣化している。
学務・スポーツ課長	齋藤	・確認する。
委員長	14番 佐藤	・他に質疑あるか。
議長	16番 西原	・教育施設とスポーツ施設のことで、生涯学習センターの使い方、使い勝手が悪いと言う声があるから中央公民館を復活させようという説明を当初されたが、使い勝手が悪いと言う声があるのか。聞いているのは、二階の会議室を机と椅子の出し入れ遠く使いずらく、プラトの方が出し入れがしやすいとの声。
生涯学習センター長	福原	・これまで1年半そういった意見があった。現在2階の会議室については、30人分の机と椅子を会議室内に置いている。その上で足りない場合は倉庫から出していただくこととしている。
議長	16番 西原	・わかりました。
委員長	14番 佐藤	・他に質疑あるか。
委員	一同	・なし
委員長	14番 佐藤	閉会挨拶
委員長	14番 佐藤	15:05 閉会